

可搬式ポンプ(シバウラ FT-300)取扱説明

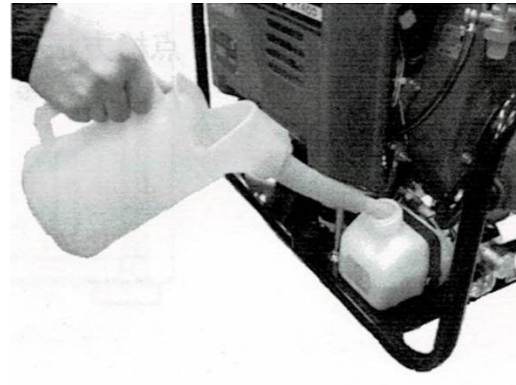
1.補給

(1) 燃料を入れる。(燃料タンク容量 約 4.0L)

○自動車用レギュラーガソリンを燃料ゲージが『F』になるまで注入する。

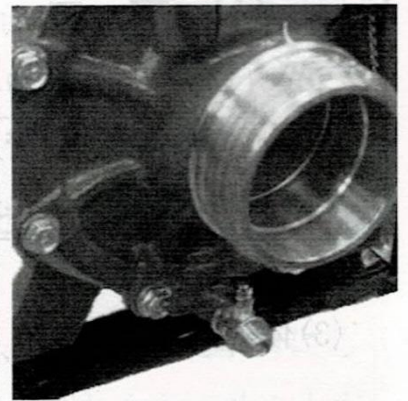
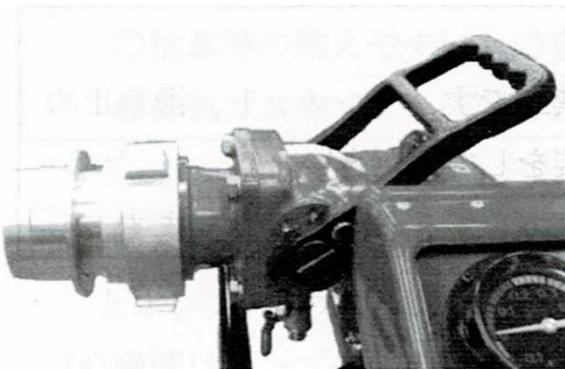
(2) 2 サイクルエンジンオイルを注入する(オイル容量 約 0.4L)

※オイルタンク内のオイルが少なくなると、エンジンが自動停止する。



2.始動

○エンジン始動前に放水弁、ポンプドレイコックを閉じる。



放水弁

ドレンコック

ポンプドレンコック

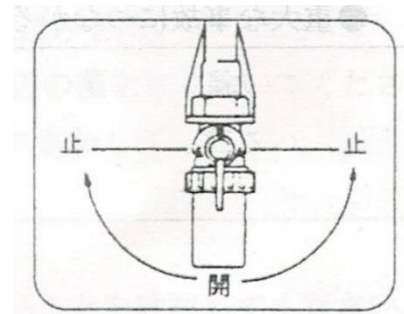
○操作手順に従い、本機の番号順に操作する。

(1) ①の燃料コックを開く。

○燃料コックレバーを真下に倒して「開」にする。

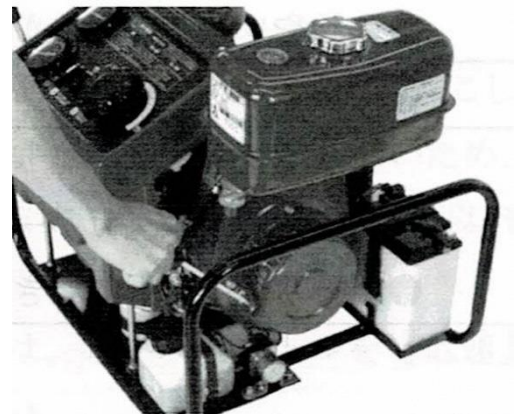
(2) ②のスロットルを『始動』の位置にする。

(3) ③のメインスイッチを『運転』の位置にする。





- (4) 右の写真のように④のリコイルスターターハンドルを少し重たくなるまで引き出した後、勢いよく引く。



3.吸水

- (1) エンジン始動後、②のスロットルを『吸水』の位置にする。
- (2) ④の吸水レバーを手前に引き真空ポンプを作動させ吸水する。

○圧力計の針が振れて圧力が上がり、安定したら吸水レバーを速やかに戻す。

○吸水レバーを引いて真空ポンプを作動させるとき、その運転時間は 30 秒以内とする。



4.放水

○放水前に筒先の安全を確認し、筒先側に合図してから放水開始する。

- (1) 放水弁レバーを徐々に『→開』の方向へ操作し、止まるまで開く。

筒先の状況に応じて筒先側と連絡を取りながら、スロットルにより圧力を調整する。

- (2) 放水待機状態について

○放水中、放水弁を閉じて待機状態にする場合は、

②のスロットルを『低速』にしエンジンを停止する。この場合、逆止弁が作動して落水しないため、エンジンを再始動し放水弁を開くと放水される。

(但し再始動は 3 分以内に行う)



○エンジンを停止せず待機する必要がある場合は、必ず②のスロットルを『低速』にし、ポンプのドレインコックを開く。

(3) サーチライトを点灯する場合

○操作パネル左下のコンセントにサーチライトのプラグを差し込む。



5.停止

(1) スロットルダイヤル②を『低速』の位置にする。

○エンジンが高温になっているときは、約1分間低速運転して冷やす。

(2) 放水弁レバー③を『→閉』にして閉じる。

(3) 停止スイッチ④をエンジンが止まるまで押す。



6.水抜き

(1) ポンプドレインコックを開ける。

(2) 放水弁ドレインコックを開け、放水弁を開閉し、完全に排水する。

(3) ポンプドレインコックを閉じ、給水口キャップを取り付ける。

(4) エンジンを始動して吸水レバー④を引いて真空ポンプを約5秒間作動させる。

(5) スロットルダイヤル②を『低速』の位置にし、メインスイッチ③を『停止』の位置にする。

(6) ポンプドレインコックを開き、給水口キャップを取り外して、完全に排水されていることを確認する。水抜きが不十分な場合は(3)～(5)を繰り返す。

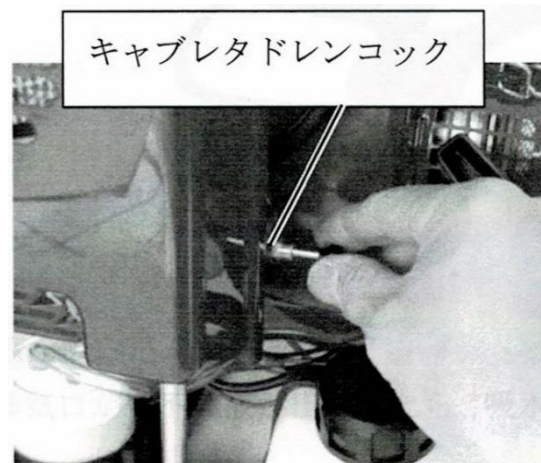
(7) ポンプドレインコックを閉じ、吸水キャップを付ける。

7.格納、保管

(1) 燃料タンクは、満タンで保管する。燃料コックは閉じておく。

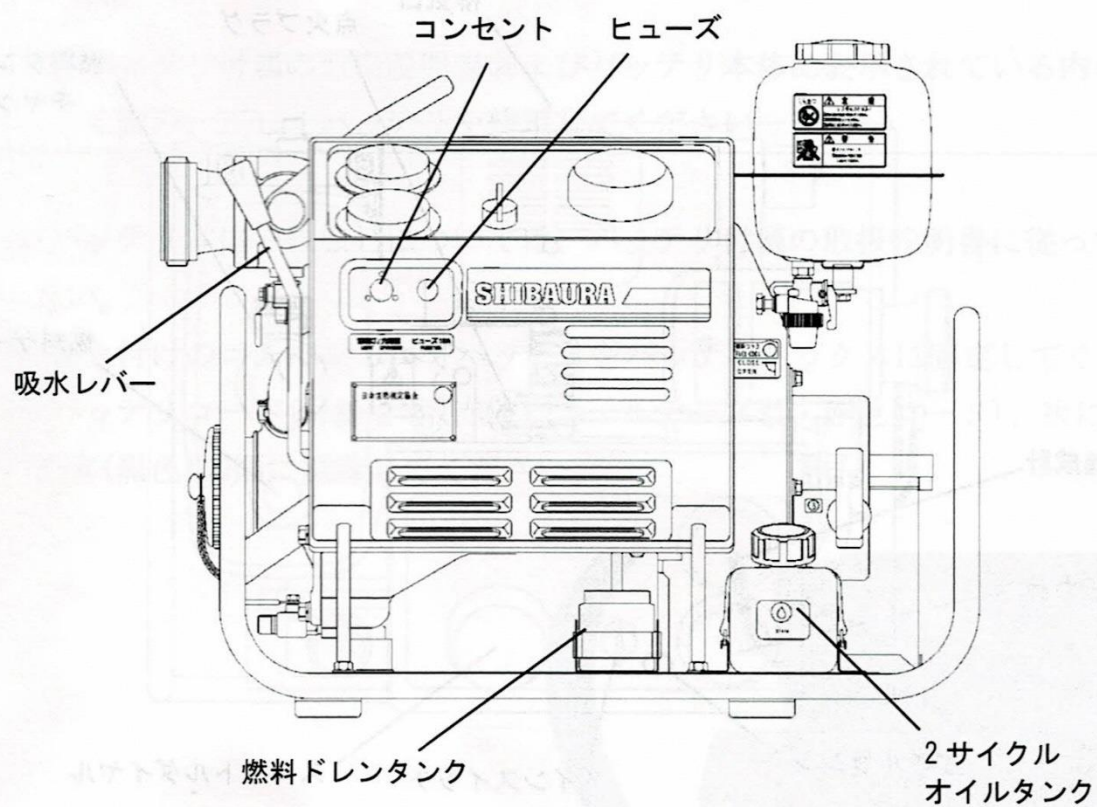
(2) 2 サイクルオイルは規定量注入しておく。

(3) キャブレタ内の燃料はリコイルスターター側のキャブレタドレンコックから抜いておく。

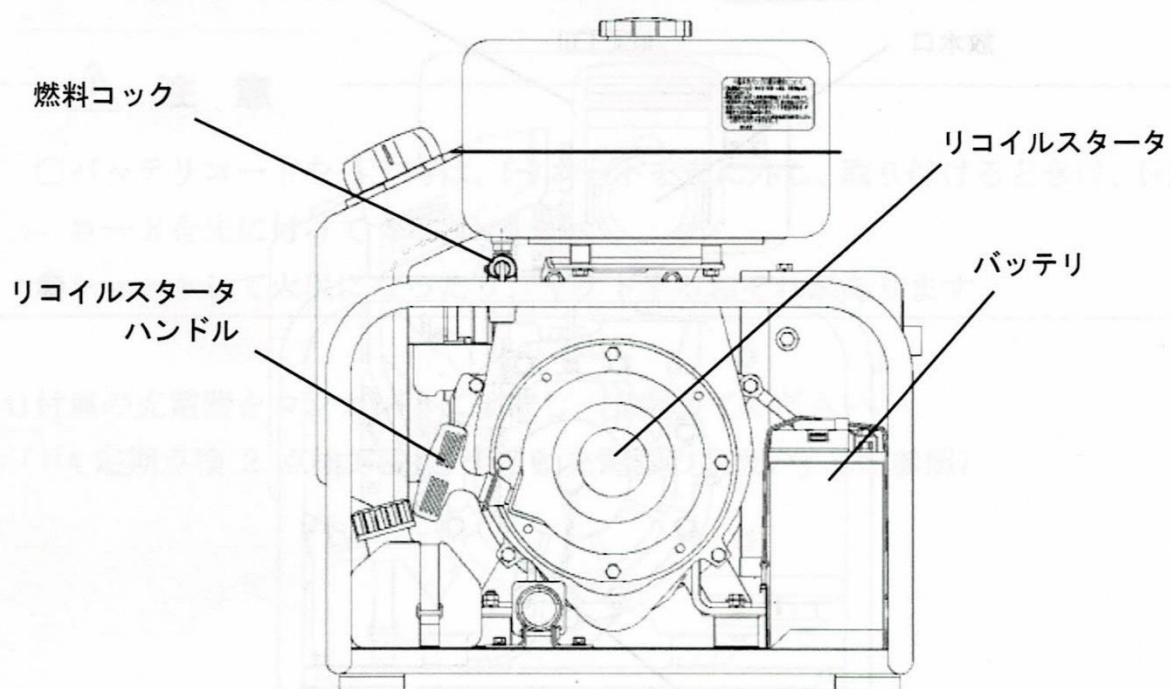


各部の名称

操作側

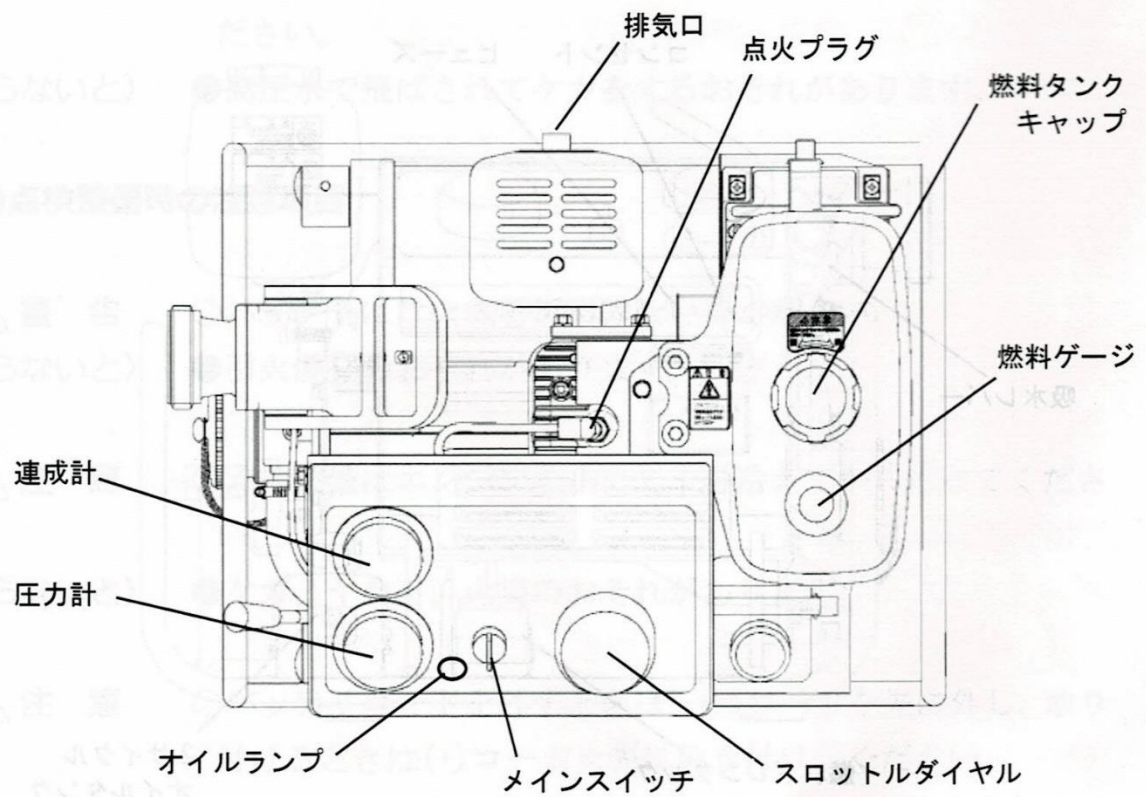


リコイルスタータ側



各部の名称

上面側



ポンプ側

